

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號一第 卷二第

## 論說

●收益遞減法則ノ發見及ヒ改造  
●米價ノ騰落ト其調節ニ就テ(二卷)

## 研究

●近代都市ノ土地買收政策  
●穀倉證券論  
●本邦出生率増加ノ原因(一)  
●本多利明ノ經濟說(一)

## 雜錄

●經濟雜語(一)  
●米國ノ經濟的繁榮  
●戰爭利得稅新法  
●米歐爲替ト貿易  
●諸學校學生入學年齡ニ關スル統計  
●最近本邦鐵業ノ發達ニ就テ  
●最近ノ金融問題(二卷)  
●萊府大學ノ經濟演習  
●米國ニ於ケル外來白人ノ母語

法學博士 河上 肇

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戶 正雄

助教授 河田 嗣郎

講師 高田 保馬

法學士 本庄榮治郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 神戶 正雄

法學博士 小川 郷太郎

助教授 河田 嗣郎

醫學博士 鈴木 文太郎

工學博士 齋藤 大吉

ドクトル 谷村 一太郎

法學博士 西 彦太郎

法學博士 河上 肇

# 米歐爲替ト貿易

助教授 河田 嗣 郎

米國ニ於ケル歐洲爲替ノ夥シキ下落ハ洵ニ開戦以來ノ最ニ顯著ナル事件ノ一デアツテ、爲メニ我邦マテガ甚シキ影響ヲ被リ一時正貨流出ノ苦痛ニ堪ヘズ朝野ノ大問題ヲ惹起スルニ至ツタコトハ研究上頗ル興味アルモノト云ハネバナラヌ。而シテ此ノ大勢ハ今尙ホ依然トシテ持續サレテアルノデアツテ低氣壓ハ依然去リヤラヌ有様デアル。今開戦以來一年間ノ爲替相場ヲ見ルニ左表ノ如キ變動ヲ示シテ居ル。

## (一) 磅及ビ馬克ニ對スル弗相場

	磅(電信)	馬克(電信)
一九一四年七月二十四日	四・八八分	九五分
七月三十一日	六・三五分	一〇四分
九月末	四・九七分	九四分
十二月末	四・八六分	八八分
一九一五年一月末	四・八五分	八七分
二月末	四・八一	八二分

## 第二卷 (第一號一二四) 一二四

三月末	四・八〇	八三分
四月末	四・七九分	八二分
五月末	四・七八分	八三分
六月末	四・七七分	八一分
七月九日	四・七七%	八一%
二十三日	四・七七%	八一
三十日	四・七六%	八一%
八月六日	四・七六%	八一
十二日	四・七三分	八一%
十四日	四・七〇%	八一%
十六日	四・六七%	八一%
十七日	四・六五%	八一
十八日	四・六七%	八一%
十九日	四・六八	八一%

右ノ如キ大下落ニ對シテハ流石ノ英國モ大ニ苦痛ヲ感ジ終ニ例ノ五億弗公債ノ紐育賣出ヲ見ルニ至リ、又米國側ニ在ツテモ輸出業者ノ困却一方ナラズ、米國證券ノ海外賣却ノ如キ亦一千万乃至二千萬弗ヲ下ラズト測定サルル(Monthly Circular of the National City Bank of Chicago)ニ拘ラズ、貿易變調ノ依然タルモノアルガ爲ニ大勢ハ之ヲ奈何トモスルコトガ出來ヌ。



合 計

一ノ國對入出

一ノ國對出

右等示ス所ニ依リ一方ニ爲替相場ノ状態ヲ見  
 他方ニ於テ一般貿易ノ状態ト金輸出入ノ状態ト  
 ヲ見テ、兩者ヲ比照攷察スルニ於テハ、吾人ハ這  
 間ニ頗ル興味アル關係ヲ見出スコトガ出來ル。  
 因ニ日本ヨリ米國ヘノ金輸出ガ本年六月迄ノ一  
 年間ニ於テ激増シテ居ル有様ハ特ニ注意ヲ要ス  
 ル點ナル。(Economist, Aug. 21 and September  
 18, 1915; Statist, Sept. 4, 1915) (五ノ一七〇號)